

東久留米市立図書館資料選定基準

この基準は「東久留米市立図書館資料収集方針」に基づくものである。

[留意事項]

選定・収集するにあたっての基本的な留意事項

- (1) 網羅的に収集する分野以外は、蔵書構成に留意し、バランスのとれた資料の収集に努める。
- (2) 出版点数の多い分野は選択的に収集し、出版点数の少ない分野は学術書にも留意して収集する。
- (3) 改訂版、増補版及び年次刊行物は、改訂、増補等の意義が大きい場合は選択的に収集する。
- (4) 時事的なものは、利用者のニーズを勘案しながら選択的に収集する。
- (5) 多数の類書や一時の流行の資料については厳選して収集する。
- (6) 入門的な役割を果たす資料で、マンガや音声等による表現により、内容がわかりやすく伝わるものは、選択的に収集する。
- (7) 専門家や研究者が利用するような高度な専門書、研究書は厳選して収集する。
- (8) 小・中・高校生向けの受験問題集や学習参考書、書き込みや切り取り等を主目的とする資料等、個人が専有し利用することを目的とするものは、原則として収集しない。

[収集の程度]

- | | | |
|----------|---|--|
| 収集しない | … | 収集しない。 |
| 厳選して収集する | … | 資料価値や蔵書構成上の必要性に応じて、慎重に収集する。 |
| 選択的に収集する | … | 適当なものを選択して収集する。(刊行年や予算等による制約を付す場合がある。) |
| 積極的に収集する | … | 蔵書構成上必要な資料をできる限り多く収集する。 |
| 網羅的に収集する | … | 該当する資料のすべてを収集する。 |

[資料の種類]

- | | | |
|-----|---|--|
| 実用書 | … | 仕事や生活に役立つ実務的な資料 |
| 教養書 | … | 学術や文化等について学習に役立つ資料
(大学の一般教養程度の入門書や概説書等も含む。) |
| 学術書 | … | 調査研究を行うために必要な資料やその成果である論文等の資料
専門書、研究書 |

1 図書

(1) 一般図書

0 類 総記（情報学、図書館、図書、百科事典、叢書）

- ・ 学問一般、図書館、書誌学、読書、著作権及び出版に関する資料は幅広く収集する。

[情報科学]

- ア 基本的な技術書及び実用書を収集し、最新の情報提供に努める。
- イ 主として、プログラムやソフトウェアについての一般的な内容の資料を収集する。
- ウ 入門書をはじめ、個別のソフトウェアの操作マニュアルにも留意する。
- エ 付属資料については著作権に留意し、貸出等に支障がないことを確認する。

1 類 哲学（哲学、心理学、倫理学、宗教）

- ・ 哲学、心理学、倫理学、宗教については、各分野の基本書を体系的に収集する。
- ・ 初学者のための入門書、概説書に留意する。

[哲学]

- ア 哲学、思想関係の資料は、評価の定まった主要な哲学者・思想家の著作や学説を中心に伝記、解説書まで収集する。
- イ 古典だけでなく現代の哲学者の著作も選択的に収集する。

[心理学]

- ア 入門的なものや実用的なものを中心に収集する。
- イ 超心理学、心霊研究、易占に関する資料は厳選して収集する。
- ウ 社会、教育、医学等の関連分野に留意する。

[倫理学]

- ア 人生訓は類似内容の資料が多く出版されているため、厳選して収集する。

[宗教]

- ア 解説書を中心に主な宗教の原典も含めて収集する。

2 類 歴史（歴史、伝記、地理）

- ・ 世界の各時代、各地域についての基本書を体系的に収集する。
- ・ 特定の歴史観や学説に偏らないよう幅広く収集する。

[歴史]

- ア 教養書を中心に学術書も含め多様なレベルのものを幅広く収集する。

[伝記]

- ア 特定の人物に偏らないよう留意し、被伝者についての記述が客観的データに基づいた信頼性のあるものを収集する。

[地図、地理、地誌]

- ア 正確で信頼性の高い最新の資料を収集する。
- イ 地域の偏りがないよう留意する。

[旅行案内（ガイドブック）]

ア 旅行案内は、適宜最新の資料に更新する。

3 類 社会科学（政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗習慣、国防）

- ・ 各分野の基本書を収集する。
- ・ 時事性の高い分野であるため、今日的主題を扱った資料は選択的に収集する。
- ・ 日常生活や実務に必要な実用書は最新の資料を収集する。
- ・ 法改正や制度変更に留意する。
- ・ 人権尊重と男女共同参画についての最新の動向に留意する。

[法律]

ア 法律、税制に関する資料は、基本的な文献と最新のものを収集する。

[経済]

- ア 入門書、実用書から、古典的なものまで体系的に収集する。
- イ 研究の動向や経済情勢に留意し、最新情報を知るための資料を収集する。

[社会・福祉]

- ア 生活に密接に関わる分野なので、実用書については幅広く収集する。
- イ 資料の更新に留意する。
- ウ 概論とともに、社会的関心の高いテーマのものに留意する。
- エ 就職や仕事に関する資料は、必要に応じて選択的に収集する。

[教育]

- ア 生涯学習の観点から幅広く収集する。
- イ 学校案内や受験案内は選択的に収集する。

[風俗習慣、民俗学]

- ア 多様な観点に立つ資料を幅広く収集する。
- イ 冠婚葬祭については、実用的で新しい資料を選択的に収集する。

4 類 自然科学（数学、理学、医学）

- ・ 専門化、細分化されている分野であるため、入門書、解説書を中心に収集し、わかりやすく書かれたものに留意する。
- ・ 必要に応じて学術書も収集するが、高度で専門的な資料は収集しない。
- ・ 最新情報を必要とするものについては、資料の更新に努める。

[数学、理学]

- ア 最新の学問の傾向に留意する。
- イ 図鑑など目で見て理解できる資料に留意する。
- ウ 気象、自然災害、地震に関する分野は幅広く収集する。

[医学、薬学]

- ア 情報の信頼性の高い一般向の資料を積極的に収集する。
- イ 最新の学問の傾向に留意し、資料の更新を行う。

ウ 病気の治療法に関する資料は、標準的な治療法に留意する。医学的な根拠の確定してない治療法、健康法を紹介した資料は厳選して収集する。

エ 心理学、福祉、介護、教育などの分野の選書に留意する。

5 類 技術（工学、工業、家政学）

- ・ 各分野の基本書を収集する。
- ・ 最新情報を必要とするものについては、資料の更新に努める。
- ・ 趣味や実用に役立つ資料は、幅広く収集する。

[建築工学、土木工学]

ア 図録など目で見て理解できる資料に留意する。

イ 環境問題は、社会・防災分野との関連に留意する。

[建築学]

ア 実用書を中心に収集する。

イ 法や制度改正に留意する。

[家政学、生活科学]

ア 類似内容の資料が多く出版されているため、選択的に収集する。

6 類 産業（農林水産業、商業、運輸、通信）

- ・ 各分野の基本書を収集する。
- ・ 趣味や実用に役立つ資料は、幅広く収集する。
- ・ 地域の産業に関する資料に留意する。

[商業]

ア 社会・経済分野との関連に留意する。

7 類 芸術（美術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸、娯楽）

- ・ 多様な趣味、娯楽、教養に役立つ資料を、鑑賞・研究と制作・実技等との両面にわたり、入門書を中心に収集する。
- ・ 美術全集、画集、写真集等は選択的に収集する。
- ・ 楽譜については内容に留意し、一枚ものの楽譜は収集しない。

[スポーツ]

ア 各競技・各種目の実技と観戦に役立つ資料を収集する。

イ 技術書・ルールブックの改訂、新しいスポーツや障害者スポーツにも留意する。

8 類 言語

- ・ 言語に関する入門書、概説書を中心に収集する。
- ・ 多様な言語に関する資料を収集する。
- ・ 主要言語の辞典・事典類は積極的に収集する。
- ・ 語学を習得するための資料は、音声資料付きのものも収集の対象とする。

- ・ 実用に役立つ資料を幅広く収集する。

9 類 文学

- ・ 日本文学及び外国文学については、現代作家から古典まで幅広く収集する。
- ・ 時事性、話題性にも留意する。
- ・ 個人全集は、単行本未刊行作品も収載されていることが多く、年譜や著作目録等も充実しているため、単行本や文庫の所蔵数や状態等を考慮し、選択的に収集する。
- ・ 文学研究、評論、解説書等は、評価の高いものを中心に幅広く収集する。
- ・ 翻訳作品は、訳の相違に注意する。また、出版点数の少ない国の作品にも留意する。

■参考図書（通読ではなく、特定の項目を調べることを主眼に編集された図書）

市民の調査研究に資するため、事典・辞典・年鑑・統計・書誌・地図等を各分野にわたり幅広く収集する。また、最新の情報・データの提供に留意する。

- ・ 特に有用な情報源については、オンラインデータベースによる提供に留意する。
- ・ 中央図書館は、レファレンスサービスを担う中心館として、各分野の基本的な資料を幅広く収集する。また、利用状況やレファレンスサービスの特徴及び傾向に留意し、必要に応じて専門的な資料も収集する。
- ・ 地区館は、簡易な調査研究に役立つ基礎的な資料を中心に収集する。

（2）児童図書（乳幼児・小学生及び中学生程度までの利用を目的に編集された資料）

子どもの読書と学習に必要な資料を収集する。

- ・ 発達段階に応じたわかりやすい表現や適切な日本語で書かれているものを選択する。
- ・ 長く読みつがれてきたものや評価の定まったものは、基本図書として常に備える。
- ・ 子どもの学習をたすけ、さらに興味を広げる資料を収集する。なお、新しい知識や知見、研究動向及び最新のデータに留意する。
- ・ 子どものレクリエーションや生活に必要な資料に留意する。
- ・ ハンディキャップサービス資料に留意する。
- ・ 収集上の留意点

ア 絵本

絵本は絵が重要であることから、絵と文の調和がとれているものを選択的に収集し、芸術性にも留意する。

イ 学習マンガ

児童向けの歴史マンガや伝記マンガは、絵があることで子どもの理解をたすけるものを厳選して収集する。

ウ 紙芝居

演じることを前提とした特性を踏まえ、絵と文の調和がとれているものを選択的に収集する。

2 逐次刊行物

(1) 新聞

国内発行の主要全国紙を中心に収集し、専門紙及び児童向け新聞については必要に応じて収集する。

(2) 雑誌

雑誌は速報性と多様性に富むため、蔵書構成に留意しつつ、各分野の主要なものを収集する。

(3) その他逐次刊行物

必要に応じて収集する。

3 地域資料

「東久留米市立図書館地域資料収集基準」に準じる。

4 行政資料

東久留米市が刊行した発行物は、網羅的に収集する。なお、東久留米市の関連団体の発行物及び東京都、多摩地域、23区、島しょの自治体の発行物は選択的に収集する。

また、政府刊行物は選択的に収集する。

5 外国語資料

日本語を母語としない市民のために必要な資料を厳選して収集する。また、市民の多文化理解に役立つものを厳選して収集する。

(1) 英語、中国語、韓国語を中心に収集する。

(2) 児童図書については、利用ニーズを考慮して、その他の言語も収集する。

(3) パンフレット・リーフレット等も収集する。

6 ハンディキャップサービス資料

障害に応じて利用に適した形態で提供する資料を選択的に収集する。なお、利用動向や顕在化していないニーズに留意する。また、資料によっては自館で作製する。

(1) 録音資料

(2) 触覚情報へ変換した資料

(3) 拡大資料

(4) 電子資料

(5) リライト資料

7 視聴覚資料

活字資料によって得られない、調査研究に有効な情報を含む資料を選択的に収集する。

また、新しい媒体や規格、資料の形態については慎重に検討する。

(1) 音声資料

ア 音楽・音響資料

イ 落語、演芸、文芸資料

ウ 外国語資料

(2) 映像資料

ア ハンディキャップサービス資料

イ 東久留米市に関する資料

ウ その他映像でなければ表現できない資料

8 マンガ

(1) ストーリーマンガ(コミック)は「東久留米市立図書館マンガ(コミック)の取扱い」に準じる。

(2) 学習マンガは児童図書として扱う。

(3) 以下は一般図書として扱い、厳選して収集する。

ア マンガ表現を用いた実用書

イ 芸術作品として評価の定まったもの

ウ コミックエッセイ

9 その他資料

(1) パンフレット・リーフレット

(2) その他

なお、活字媒体では提供できないものは、データベースの活用を検討する。

付 則

(施行期日)

この基準は、平成30年11月20日から施行する。

(東久留米市立図書館資料別選定基準の廃止)

東久留米市立図書館資料別選定基準は廃止する。